

令和四年お盆法要
住職繼承のご挨拶

正信寺 釋英和

令和四年七月十日 正信寺 お盆法要 ご挨拶

住職継職ご挨拶

釋英和

【はじめに】

本日は、お忙しい中、お参りいただきまして、ありがとうございます。

皆様、このたび正信寺三代目の住職に就任しましたので、ご挨拶申し上げます。今日は、所信表明の場所というつもりでお話しさせていただきます。

【住職になるという事】

■住職とは

お坊さん、すなわち僧侶は、本山で勉強して、いろいろな場所に赴いて説法をして衆生を導く仕事といわれています。

住職というのは、お寺に住んでいるお坊さんという事なのですが、そういった意味では、前住職はここに住んでいますので住職なのですが、私は、鎌倉に住んでいますので、住職とは言えないのかもしれませんが、

浄土真宗では、親鸞聖人のお墓を守る人を当初、留守職（るすしき）といっていました。

本来、留守職は、平安時代から鎌倉時代の最初に、国司が赴任されない国府の長官の代理ことを指していました。最初の留守職は、源頼朝が陸奥国の多賀国府の国司の代わりを井澤氏に任せただけから始まり、親鸞聖人のお墓は、大谷本願寺と呼ばれるようになり、その留守職は、住職と同じ役割だったと思われれます。当初の留守職の就任にあたり

ては、当初は親鸞聖人の娘の覚信尼が就任します。そして、覚恵上人、覚如上人と継がれていきます。大谷本願寺は今の知恩院のそばにあったのですが、秀吉の時代に現在の大谷本願寺に移されたそうです。京都東山にある大谷本願寺は、今では普通の檀家さんの遺骨も埋葬できる墓所になっています。

行政の上では、宗教法人の住職になるという事は、法人の代表役員になるという事です。会社の法人の代表は社長ですから、お寺の経営をしなければならぬという意味です。

宗教法人の代表役員になるには、法務局で登記して、登記が完了したら、宗教法人を統括している文化庁に届け出る必要があります。文化庁の出先機関は、県庁の文書課にあります。

昨年十二月に登記をして、県庁文書課に住職交代の届け出を致しました。こうした手続きを経て、住職になりました。今後とも変わらず、皆様方のご支援を賜りたくよろしくお願ひします。

■仏教との出会い

私が仏教を意識したのは、幼稚園の時に、生まれた埼玉県所沢市から正信寺の以前の所在地である、横浜市港北区に引っ越してきた時です。

幼少の私は、お寺というものは境内があつて、鐘撞堂があり、反り返った屋根がある建物だと思っていました。初代住職が住んでいた正信寺は、普通の家に正信寺の看板がかかっているだけの小さな家でした。大きな仏壇があり、年に何回か、法要があり人が集まることはわかっていました。しかし、あまり、お寺に住んでいるという意識はありませんでした。

法要がある時は、物音を立てないようにじっとしているように両親から言われていました。小さな子供にとって、それは苦痛でした。また、よ

く祖父である初代住職から、「念仏をきなさい」といわれました。念仏をしたら何か得なことが起きるのかという気持ちがあったように思います。極楽浄土という場所は理解できていなかったと思います。

私が得度したのは、小学校五年生の時、十歳の頃ですから、もう半世紀前になります。新幹線に乗って京都に行けることは楽しみでした。

父である先代住職と一緒に得度をしたのですが、剃髪した父の頭から剃刀負けで何か所も血が出ていたことを思い出します。そういう私も、指定の床屋に行つて、髪型の指定をする言葉を出す前に、床屋さんが、私の坊ちゃん刈の額に電動バリカンが入ったときには、はっと息をのみました。

暑い夏の京都で、締め切った暗い部屋で読経をして、墨染の衣を着て外に出てきたときの眩しさとうるさい蝉の鳴き声が記憶に強く残っています。剃髪をして衣を着て儀式をして、これで違う世界に入ったという感覚はありましたが、出家とか、仏門に入ったという厳粛な気持ちには、なっていなかったと記憶します。

■教師の資格

住職となるためには、教師の資格が必要といわれています。教師の資格は、読経するための声明、仏教学、浄土真宗の教え、浄土真宗の歴史、教行信証について二年間学び、試験またはレポートを提出して資格を得ます。

自分でいうのもなんですが、社会人として脂ののった五十歳代に、仕事をしながら、平日週五日、浅草にある本願寺学院の夜学に通う必要がありました。朝九時から夕方五時まで働き、夜七時から九時まで勉強と、体力的にも厳しかったのですが、仏教学とって仏教哲学を学んできて、

少し理解できてくると面白くなってきたという記憶があります。

そうは言うものの、当時のレポートに「仏教は鰻のようだ」と書きました。どういうことかという、少し理解できてくると、更に奥があることが分かるのです。つまり、仏教を勉強することは、鰻をつかもうとする、「つるつ」と逃げてしまうような感覚があったという事です。「分かったと思ひこむことが、一番危ない」というのが仏教なのではないでしょうか。

仏説阿弥陀経の最後のほうに、「為一切世間 説此難信之法 是為甚難 仏説此経已」とあります。お釈迦さまが「一切の衆生のために、このように信じがたい(極楽浄土のような素晴らしい国がある)ことを説いたが、これも難しいことであると、仏はこのように経を説いた。」と書かれていることも、最初は意味が分からなかったのですが、だんだん腑に落ちるようになりました。

教師補の資格を得て、本山からは人に仏法を説いてもよい、布教してもよいと認められたのですが、仏教を分かったと思っではいけないと考えています。これからも、学びの姿勢を崩さないようにしたいと思います。

【住職に就任して心がけること】

■凡夫としての自覚を持ちたい
住職になったから偉くなったというふうには考えないようにしたいと心がけています。

よく、企業で部長になったから人の上に立つて偉くなったと思ってしまう人が多いのですが、退職した時に、会社以外の家事や近所付き合いなど何もできない人になってしまっではいけないと思っています。住職である前に、人として良い価値観を持ち、行動できる人になろうと考えて

います。

年を取って、口先ばかりで、他人に指示ばかりしているような人にならないようにしたいと思います。

つまり、住職だから善知識になったというのではなく、自分が凡夫であり、愚かであることを自覚して行動したいと思います。

■住職としてのモチベーションを保ちたい

登記などの社会的な体裁を整え、教師補という資格を得て、形だけは住職になることができましたが、これからどうしていかうかという事に関して思うところをお伝えしたいと思います。

解剖学者で作家の養老孟子さんは、「バカの壁」などの著書で有名です。

私の中学、高校の先輩にあたります。先日、養老さんの著書「子供たちが心配」(PHP 研究所)の紹介記事を読みました。

その記事によると、医学部の最高峰である東大の医学部を卒業しても、国家試験に合格できない人がいるそうです。国家試験に落ちている殆どの人は、養老先生の解剖学が落第点だったと養老先生は分析していました。

解剖は、個体によって異なる病巣があり、それぞれの組織の形や硬さがちがいがい、こうすれば正解という解剖もないようです。臓器や骨の名前の試験のように、こうすれば正解ということもなく、状況によって手を器用に動かさなければならず、頭の良い人にとって、面倒くさい事のようにです。

解剖は、「医者になりたい」という明確なビジョンとモチベーションがないと、やり遂げられないことなのだそうです。

簡単に言うと、医者に限らず何をするにも、やり遂げることは「やる気

の問題」という事だということです。

私は、ITの世界で、素直で頭の良い若者が心を病んでいる姿をたくさん見ました。浄土真宗の教えを生かして現代の問題の解決のヒントを提示したい、仏教が身近に感じられた世代の方だけでなく、若い人にも分かるように浄土真宗を語りたいという気持ちを持っています。これが私の住職としてのやる気の根源で、これからも、学びが必要だと思っております。

月を見て、子供には兎さんがお餅をついていると言う説明をし、小学生には、クレータという凸凹が月面の濃淡を出していると言明し、高校生には、この辺りは静の海という名前がついているというように人を見て法を説きたいと思えます。

■世代の意識のギャップを埋めていきたい

皆様にとって信仰は大切なもので、日々の不条理なことを乗り越える力になると思えます。また、生きている間に感じる将来の不安に対して、安心を与えてくれる考え方だと思っています。

昭和三十年代世代以降の人たちは、宗教は古臭くて、非科学的と考える人もいるように思いますが、反面、若い人は新興宗教にはまってしまいう人もいると聞いています。

若い人は、実際に人に会うよりインターネット上で出会うことができる空間としてSNS(ソーシャルネットワークサービス)という世界で友達を作り、日常の喜怒哀楽を共有している人もいます。

例えばSNSの一つであるフェイスブックはもともと、大学キャンパスで同

じ出身地、同じ趣味や嗜好を持った人を結びつけるためのツールとして作られたといえます。リアルの人間を結びつけるための、便利なツールでした。

ところが、フェースブックは、メタという名前に社名変更しました。メタという名前のもととなったメタバースというのは仮想の空間で、仮想の空間で人々が出会うことができます。健常者も体に障害を持つ人も、性的マイノリティの人も、自分の興味のある空間に入って活動することができるようです。例えば、スキーをしたことがない人がスキーをして、その空間では転んだり、人とぶつかったりするのですが、実際は寒い思いをすることもなく、怪我をせずに楽しい体験ができるといえます。

それが、良いか、悪いかは議論があると思います。

怪我すると痛いので、体力をつけてからスキーをするというアプローチなしに、スキーをしたり、悪天候や寒さを気にせずスキーを楽しめたりするというのは、人生を楽しむという点では、お手軽に楽しめる面があります。反面、努力を乗り越えることで得られる達成感が楽しめないという面があります。

極楽浄土は、信心のある方には、真の世界です。ところが、信心のない若い方には、仮想空間に見えるのではないかと思います。仏説阿彌陀經にどのような世界か記述がありますが、言ってみれば、念仏した人だけが入れる仮想空間で、その空間に入ることができれば、苦しみが無い世界に入って、人を救うことができる能力が得られると感ぜられるのではないかと思います。

極楽浄土をゲームの世界観に例えるのは、不謹慎で皆様には分かりづらと思います。反面、今の若い人たちが昼夜を問わずやっているロールプレイングゲームゲームには、娑婆とは違った没入感のある世界観

があるという面では、地獄や極楽の考え方に似ていると思います。

ゲームに参加する人が出会う世界や空間をマップと言って、いろいろなマップがあります。つまり、地獄もあれば、餓鬼畜生の世界もあるというわけです。

初心者が入る世界があり、そこでポイントをためると次の世界に入れるというようなゲームが多いです。そして、クエストという試練に会い、それをクリアしながら最高の位やより優れた高みの世界を目指すゲームです。

宗教の世界を今の若い人に説明をするときに、イメージが伝わりやすいたとえ話をするので、極楽浄土の信仰へのハードルが下がるようになれば良いと思います。

人を見て法を説けといいますが、自分の中に、様々な価値観を持った人と共有できる多角的な視点を持つるように努力したいと思います。

■今の価値観で語る

現代は、学生も社会人も、結果主義で試験結果や業績で評価されるようです。つまり、他人より良い成績を出さないと、いけないという精神的なプレッシャーを感じながら生きています。

私は、そうしたプレッシャーを軽減するために、他力本願の考え方を語っています。

試験で絶対百点をとろうとして試験に臨むより、勉強はきちんとするが、試験が始まったら、試験結果は他力に任せると考えたほうが、プレッシャーから解放されて、結果的に良い成績が出るのではないかと思います。この考え方に至ったのは、甲子園の高校野球の球児たちが試合後に語る言葉は、感謝に充ちていたからです。優勝校の選手も、あれだけ練習し

たから勝てたという言い方はしません。試合中はプレッシャーに晒されていたにもかかわらず、監督のおかげ、グラウンド整備をしてくれた人のおかげ、支えてくれた両親のおかげとインタビューで語ります。努力はするが結果にこだわらないという姿勢が、無心の姿勢となつて、良い結果が生まれずし、負けたとしても恨み節は出ないのかと思います。

念のために付け加えておきますが、浄土真宗で使う「他力本願」の他力は、そもそも、他人の力ではなく、阿弥陀如来の力なのですが、阿弥陀如来が他人の行動を通して、自分に影響を与えてくれるという事も教えています。自分の行動結果に影響を与えてくれる力を感じ、感謝することで、信心の入口になればよいと思います。

他力本願という、昔からの考え方や価値観でも、現代の生き方に取り入れることで、様々な困難に対峙しても、プレッシャーを軽減して、よりよく生きることができるようにつながることを伝えていければと思います。

【混沌とした社会に生きていく】

■末法の世界に生きていく

末法の世界は仏教の教えが弱くなった世界だと書かれています。

現代は、混沌としていて、私には末法の世界だと思えます。例えば、次のようなことから末法の世界を感じるのです。

価値観の違いを認めない世界

戦争による人権無視、経済困難

核家族化やコロナによる疎外感、孤独

温暖化による天変地異

末法の世界に生きていくことを悲観するのではなく、だからどう生きるかということを考えていきたいのです。

■孤独な現代に向き合う

今年になってから、現代の病巣を表す事件が起きています。

埼玉県六十六歳の無職の男性が、九十二歳の母が死亡したあと、担当医師と看護師を猟銃で撃つ事件がありました。母親と二人暮らしだったとい

います。また、大阪の精神科に放火して二十四人を巻き添えにして、自分も死んだ六十一歳の男性は、妻と離婚し独りぼっちでした。十年前に家族も道連れにして死のうとしたが失敗し、今回の放火事件を起こしました。

猟銃で医師を撃つた人も精神科に放火した人も、私と年代が近く、昭和の高度経済成長やバブルを経験している人たちです。拝金主義的な生き方が一般的になってきて、学校でも会社でも競争して人より良い成績を残し、財産を蓄積しないと惨めな気持ちになるような価値観で生きてきたのではないかと想像します。

家族が無くなって孤独になるだけでなく、親が亡くなったときに、財産分与の問題で兄弟の不和に陥ってしまう家族があります。今の法律では、長男と次男、長女と次女も同じ権利を持っていますが、長男長女の方が家を守るので、親の面倒を見てきたのだから私の方が、財産分与が多くても当たり前というところで、不和になってしまう事例を散見します。せっかく兄弟がいるのに、年を取って不自由になったときに助け合えないのは悲しいことです。

仕事があまくいかなかったり、人間関係が破綻したりして、社会とのつながりを持たない人が増えています。こうしたことが、一人になって自

暴自棄になってしまう人が事件を起こす引き金になっているのではないのでしょうか。

少なくとも、今、正信寺にいらっしゃる方は、お寺とのつながりを持っていきます。もし、不安のある方は、住職に相談いただける信頼関係を、これから醸成していきたいと思えます。

■コミュニケーションを重視したい

ずいぶん昔の話ですが、私の家にも、妻あてにオレオレ詐欺の電話がかかってきたそうです。車で事故を起こしたのでお金が必要と言っていたそうです。幸いなことに、自宅から車で出社しておらず、仕事はIT関連なので、会社の車でお客様先に行って営業したり、工事したりすることはない状況でしたので、難なくオレオレ詐欺と分かりました。

お年寄りで、子供から会社の金を使い込んだなどのことで、オレオレ詐欺の電話を受けてしまうことがあっても、子供と頻繁に連絡を取っていれば、すぐに電話で確認することができると思えます。残念ながら、オレオレ詐欺に騙される人は、子供を信用しているのですが、コミュニケーションが不足している人が多いように思えます。

オレオレというくらいですから、働き盛りの男性が実家との連絡を怠っているという事なのかなと思います。

私を含めて、家族やコミュニティーとの関係が希薄になってきたひとは、仏教という因果関係で自分が生かされていることを意識していけるようになれば良いと感じています。

【おわりに】

住職になるという事は、お寺を維持し、檀家の皆様との信頼関係を築

いていく大きな責任が与えられたことだと思っております。

まだまだ、僧侶としても未熟であり、皆様の期待にこたえられる心配ではございますが、前住職と変わりないお引き立てのほど、よろしくお願ひします。

いま、住職としてここにいることも、自力の計らいではなく、阿弥陀様の本願に沿ったことと理解して、勉めさせていただきたいと思えます。

本日は、ご清聴いただき、誠にありがとうございました。

